

# 地域を教育る

## ① 地域を教育る

山田しげお

重度身体障害者授産施設・泉会「日の出舎」から

① 地域を教育る  
② 地域を教育る

一 社会による障害  
二 地域を教育る

### 一 社会による障害

障害っていったいなんだろう。たんに、足が悪い、手が悪い、ことばがわかりにくい、だけなのか？それだけではないと思う。まずは教育を受けられない、街に出られない、人と会う機会がない―だから他の人とのコミュニケーションがとれない。ぼくが考えるには、障害者のもっているハンディよりも社会的なハンディの方があまりにも大きいと思う。現在三〇歳以上の障害者のほとんどの人が教育を受けられなかった。「日の出舎」でも学校に行けなかった人が

多い。

### ① 教育を受けられないということ

教育を受けていないとは、どんなことだろう。教育を受けていないということとは、現在の社会では生きていけないことじゃあないのか。字が読めないし、計算が出来ない。それから、体系だった考えが出来ないことじゃあないのか。この文章も体系的に書く自信がない。余談だが、ぼくたち脳性マヒの人は、まともな文章は書けないのではないのかな。それは、言語障害どおりに文章を書くから時々意味のわかんない

いことばが出てくる。ぼくの場合はだくおんとか、小さい「っ」なんてめちゃくちゃじゃあないかな。言葉がうまくしゃべれない人は、単語は書いてもことばとことばの間がうまくつながらない人が多い。なんでかという、単語しかしゃべってないからなんだろう。子供の時からおしゃべりしなかったり、させなかったから文章が書けない。それと教育を受けていないから順序だてて文章を組み立てることができない。いくら口語体といっても、文章にして書くのは、ずい分違うもの。他人の言うことは理解しても、自分から話すとか書くとかいうのは、す

ごく苦手なんじゃあないのかな。障害があるということは自己表現までうばわれることじゃないのかな。

最近、精薄の人と会う機会がある。脳性マヒの人と精薄の人と、どちらがことばの保有数が多いかというところと精薄の人の方が多いのではないかな。とにかく脳性マヒの場合は外に出ないから生活経験が少ない。

ぼくはこんなことを言ったことがある。「精薄の人はいいなあ……歩けるから」。まさしくそのとおり。でも最近では複合障害が多いから……。

精薄のヨウゴ学校の先生がここの学校には複合障害の人が多いのに、エレベーターがないし、トイレも和式ばかりとぼやいていた。

実は、ぼくも新潟ヨウゴを高等部の途中で出ました。このあいだぼくの友だちに「ふつうの学校に行きたかったでしょう」とたずねられました。ぼくは笑ってごまかしたけど、よく考えてみると、ふつうの学校に行きたかった気持ちのうら返しなのかもしれない。

## ② 養護学校と地域性

ぼくがいた学校は、全県区の学校だったので、家の近所に友だちがいなかった。寄宿舎に入っていたので余計そうだったのかも。

最近感じるんだけど、学校に行くメリットって何だろう。ふつうの人は、学校に行くことにより、地域に根づくと思う。そして人と人の付き合い方を学んでいくと思う。ヨウゴ学校に勤めていた先生が、地域に根づいた教育がしたいと思うのは当然なのかもしれない。とにかく、ヨウゴ学校の学区は広すぎる。片道二時間もバスにゆられて学校に通うのだから大人でも疲れる。それからヨウゴ学校の勉強の内容は

ずいぶんふつうの学校に比べて落ちるから、ヨウゴ学校に入ってもしかたがないと思った。今から考えるとやっぱりふつうの学校に行きたかった。

## ③ 閉ざされた世界

ぼくにはだから、学校にいたころは、ふつうの友だちはいなかった。今のシステムでいくと、障害者は障害者、ケンジヨウ者はケンジヨウ者で暮らしていて、おたがいに会う機会がない。

ぼくも、はずかしながら精薄の人たちのこと知らなかった。障害者であっても、障害の種類がちがうとわかんない。ましてふつうの人はわかんないだろう。ボランティアでもやっていないってわかんないだろう。ボランティアにしても精薄の人を中心にして活動をしている人と、

身体障害を中心にして活動をしている人と、なんとなくちがうような気がする。

知的能力、社会的な能力が高いと、まともに扱ってくれるけど、知的能力、社会的能力が落ちると、すごく子供あつかいする。

## ④ 勇気をもって知ってほしい

最近『エレファントマン』という映画を見た。ぜひとも福祉関係の人は一回は見してほしい映画です。初めて『エレファントマン』を見る人は、みんなおどおどしている。ふつうの人がぼくたちと会う時も同じじゃあないのかな。ぼくはかなりフィルタをかけて街を歩いているからわかんないけど正直言って、こわいんではないだろうか。ぼくたちだってこわい。人間には防衛本能がある。だから自分とちがう人を見るとなにをされるかわかんないという恐怖心が起こるんじゃないのか。知らないということが一番こわい。

## ⑤ 障害者の自立とは

日本のリハビリテーションとか施設は、障害者本人の努力ばかりを要求する。まがった足をむりやりのばして歩かしたりする。そしてちょっとも人と人とのふれ合いの方法は教えてくれない。自立ということばかりいわれるものだから

ら、人にたのむことは罪悪感を感じる。とにかく頭でっかちが多いみたい。人との接触のしかたがヘタです。やっぱり、リハビリの影響かな。

とにかく、リハビリテーションをして、それであるていどよくなる。よくなって家に帰る。家に帰ると和式である。和式というのは障害者にとって住みにくい。たたみの上を車イスで動くなんでカレーライスを箸で食べるみたいなものだ。せっかくよくなったのにまたもとにもどる。

精薄の人は、ヨウゴ学校を出ると行く所がない。だから家に帰る。家に帰れば食べものだけは食べる。そして動かない。動かないから太るなんて三題噺みたいな話がある。せっかく訓練しても勉強しても、それを活かす場がない。なんだかもとのもくあみになる。それは、社会も悪いし、親も悪いし、本人も悪い。

## 二——地域を教育する

### ①—近所教育

ある人が「訓練をして歩けるようになったんだ」と言った。ぼくは「でも人の気持ちが変わらないかぎり、外は歩けないよ」といった。家の人、おかあさんは、かなり進歩的だと思うけ

ど、ぼくが家に帰ったとき、ぼくがあんまり外に出るのは好まない。戦前の生まれの人だからしかたないけど、でもぼくはかまわず外に出る。そうすると近所の人が「歩けるようになって良かったねエ」といってくれます。ぼくが近所を歩くのは、ぼくが歩くことにより、わかる部分って多いと思ってどこでも歩いていきます。いわば近所教育かな。

### ②—施設の地域性

施設にしたってそうだと思う。施設したい小社会をつくっている。それで何もかもその中で出来るようになっていて施設の外には出ない。だから施設は地域に根づかない。それに寄せ集めだし、高校野球が始まると、みんな自分の郷里の高校を応援する。施設の人をもっと外に出ることが施設の地域性につながるのではないのだろうか。

地域性ってなにかと考えると、人と人とのつながりではないのか。今までは、そこに住んでいる人とながりが持てなかった。ただそれだけのことじゃあないのかな。

### ③—共を育てる

施設の行事、ボランティアとの懇談会を見ると、良くてコーラ、お茶ぐらいしか出さない。

酒は出さないのか。二次会三次会までやればいいんじゃないのかな。うちの施設の人は、そこまでやれるかな、特にエライ人は……。めっちゃくちやの人間関係を作ること、それが一番大切です。

ボランティアは、良いボランティアばかりか、職員は職員の顔をし、入所者は入所者の顔をしていい人間関係なんて作れない。ということは、良い地域性もできないことじゃあないのかな。とにかく一回仮面をとって付き合える場があってもいいんじゃないのかな。ボランティアの人も今までは、活動だけしか付き合えなかった。友だちならいっしょに映画を見たり、酒を飲んだり、家に遊びに行ってもいいんじゃないのかな。だって当然のことだもの。それがやれなかったところに、まだおたがいの気持ちの中になにかがあるんじゃないのか。

一人で外に出て困ったら、一言声を出して人にたのむこと——そうすれば、みんな心良くやってくれる。

障害者の社会参加は、一声かける勇気じゃないのか。最初になにを話すかが問題である。福祉だとか障害者の話をしては、相手がかまえる。アリスとか、さだまさしの話をする。それか、おたがいの共通の話題をみつけることが大事じゃあないのか。

ぼくは、ボランティアというのには、ぼくの友  
だちであり、同志であると思っっている。長く付  
き合っていればそうなる。だっておたがいさま。  
ま。この気持ちが大それたやあないのか。

国際障害者年のマークはきらいである。ぎゃ

く三角形でいかにも安定性がない。障害者とケ  
ンジョウ者と分けて書いている。本当はみんな  
いっしょのはずなのに。  
と。

ぼくたちだってやることがある。それは、ふ  
つうの人が、ぼくたちのことを知れば、生きる  
勇気がわいてくるんじゃないのかというこ

とを思い出して下さい。  
生きるものがつらくなったら、ぼくたちのこ  
とを思い出して下さい。

△東京都西多摩郡日の出町「日の出舎」▽

自分でこのしまが  
みんこのたの時  
で十三の時  
でも  
日まつ  
パンツに  
ベツリ  
ランゴの付いたものを  
はいていた  
三オまで  
ぬたきり  
首が  
すわらなかつた  
失うものは  
なにもない  
鬼もなくなった  
もともとだから  
今が  
一番いい日だから

きぬいなものが  
きぬいに見えるんだから  
元全にできることは  
できないことはない  
けど  
できないものない  
ぼく

《山田しげお詩集「語り」》

石少利とごみ  
もともと  
なにもできなかつた  
ぼくが  
石少利でも  
ごみでも  
なれた  
なんにもできなかつたら  
なんにもなれない  
ココロ  
自分でこらえてきた  
歩けたのが  
九オのころ  
グランドを  
二本付き  
こしまで  
アパルトを歩いて  
ロボットみたいで  
ハンソンの歩み始め

一日でも  
ながく  
このままでいねよ  
一日でも  
ながく  
自分の足で歩けよ  
ごみだって  
石少利だって  
いいよ  
このおねは

皆な  
幸あれだったら  
へんたもの  
おねたちがいよからこき  
けんこうな人が  
いるんだから  
きたないものが  
あるからこき